



けやきっずまつり

19日(土)「けやきっずまつり」が行われ、多くの子供たちと保護者の皆さんが参加しました。ジュースを飲んだり、お菓子を食べたり、親子の会話が弾んだり、いつもの学校生活とはちょっと違う楽しそうな表情を見せてくれる子供たちも多く、保護者の皆さんの笑顔もいっぱい、穏やかなあたたかい時間が過ぎていました。子供たちと一緒にムキになって(?)ゲームをしている先生たちの表情もとても楽しそうでした。

コロナ禍でしばらく開催できなかった「けやきっずまつり」は、一昨年から復活して、以前とは少しずつ内容を変えて行われています。内容は変わっても、「子供たちを楽しませたい」、「子供たちの笑顔を見たい」という本郷小学校の保護者の皆さんの思いは、変わらずあたたかく、その伝統は引き継がれている。ということを感じて過ごす時間でした。



「ここでは、どう歩けばいいのかな？」

そーっとした、先生の声が聞こえてきます。体育館に向かう時など、職員室や校長室前を通る時、特に低学年の先生たちは、こんな声かけをしています。

教室移動の際には、他の授業のことを気遣って静かに移動することが大事です。

授業中は、姿勢よく座る。話をする時としない時の区別を付ける。話している人を見て話を聴く。話を最後まで聴く。名前を呼ばれたら返事をする。丁寧なことばを使う。時間を守る。机の上には必要なものだけにする。授業中に勝手に歩き回ったり大きな声を出したりしない。時と場に合わせた立ち居振る舞いをする。休み時間のうちにトイレや授業の準備をする。など。

これらのことは、「学習の規律」であり「生活上の躰(しつけ)」ともいえます。集団生活を送る学校では、これを身に付けることが必要です。家庭ではできない人との関わりの部分です。やがて社会に出た時の生活の基本となります。

先生たちは、これらが身に付くように声をかけ続けます。これらがなぜ大切なのかを子供たちに納得させて実践できるようにしていきます。特に1年生は、今までと全く違った生活や約束事を理解して身に付けていくのですから、どの子にも分かるように、機会に応じて、そのたびに丁寧に指導することが求められます。ただし、あまりきちんとさせようとすると、お互いに辛くなってきます。時にはきつく、時にはゆるく「いい塩梅(あんばい)」にできるとよいのですが、この加減が難しい…

本来、子供は元気でおしゃべりです。静かにするだけでも、けっこう時間がかかるものです。声の大きさを変えたり、間をとったり、ほめたり、しかったり、30数人のそれぞれの生活体験の違いを受け止めて、その上で理解させて実践に導く、「躰は家庭で」とも言われますが、保護者の皆さんと連携していくこともとても大切だと感じています。

学年が上がるにつれて、だんだんと身に付いてきますが、それでも、先生が言ったことをすぐにそのまま聞き入れる時ばかりではありません。分かっているけど、わざとやらない(できない)こともあります。そこで、子供とのやりとりや駆け引き?も必要になります。多くの子供たちと触れ合って、その子に合う声のかけ方や関わり方を見つけていく。今日も先生たちの試行錯誤は続きます。